

セイタカアワダチソウの蜂蜜



蜜を吸うミツバチ

2010.10.17

セイタカアワダチソウ（背高泡立草）。1897年頃、北アメリカから観賞用、蜜源植物として日本に導入されたと言われている。英語ではゴールデンロッド（金の鞭）といい、花をよく見るとなかなかきれいである。たくさんのミツバチが飛び回っている。日本でも今や完全に定着し、秋の野を黄色に染めている。しかし、絶滅危惧種のフジバカマや、オギ、ススキなどの在来種を駆逐し、種の多様性を損なうおそれがあることから、環境省の「要注意外来生物」および「日本の侵略的外来種ワースト100」に指定されている強者なのである。

もともと繁殖力が旺盛であったが、急に多くなったのは**1940年代以降**とされている。高度経済成長で各地が造成され、攪乱（かくらん）された環境が増えたことが一因であるが、**養蜂業者**（蜂蜜などをとるためにミツバチを飼育する業者）が晩秋の花の少ないときに貴重な蜜源を得るために広めたという説もある。ネットで調べてみると、セイタカアワダチソウの蜂蜜を販売している業者（「みつばちの郷」）が見つかった。HP上では『**独特のにおい**は駄目な人もいるかもしれませんが。どちらかといわれると「クサイ」。でも！味はコクがあって、非常においしいはちみつです！』とある。そこで、実際に取り寄せて味わってみることにした。（300gで1300円）

3年の理系生物選択者（回答者11名）に北海道産「セイタカアワダチソウ」と試供品の「そば」「ぼだいじゅ」「マロニエ」「みかん」「はぜ」の蜂蜜とを食べ比べてもらった。すると、セイタカアワダチソウの蜂蜜は**ダントツの一番人気**（6名が◎）であった。「果物のような味がする」「一番味も香りもよかった」……正直、意外な結果だった。

要注意外来生物、ワースト100など、不名誉な称号をもつセイタカアワダチソウではあるが、まもなく冬を迎えるミツバチたちにとっては、確かに、来年に命を繋ぐ**貴重な蜜源**なのであろう。

